三人の子を連れ福島の空気をすこし浅めに呼吸していつ　大口玲子『桜の木にのぼる人』２０１５年

違和感を感じつつ貼る「がんばろう！東北」もつとおれが頑張れ　駒田晶子『光のひび』２０１５年

復興は何をもていふふくしまのからだは雪の声を抱けり　高山邦男『インソムニア』２０１６年

修羅なりし海おだやかに暮れてゆく　祈るかたちに白波は立つ　本田一弘『あらがね』２０１８年

山口明子『みちのくの空』２０１９年

【令和（２０１９～）】

八重つばき八重なるままに花の落ち令和元年二日目のごみ　藤島秀憲『ミステリー』２０１９年

階段を一段いちだん降りるごと令和の時間に夢ふやしたし　田中徹尾『吟』２０２０年

滑らかに身を扉へとしまひゆく令和いかなる時代（とき）か知らねど　佐藤モニカ『白亜紀の風』２０２１年

【新型コロナウイルス流行（２０２０年～）／東京五輪（２０２１年）】

トランプの絵札のように集まって我ら画面に密を楽しむ　俵万智『未来のサイズ』２０２０年

「東京五輪の経済効果」という言葉／蔑しつつ、されどパンデミック下の無職　奥田亡羊『花』２０２１年

人の来ぬ来させぬ社会的距離（ソーシャルディスタンス）　日と月と風と雨が過客か　伊藤一彦『言霊の風』２０２２年